



6 月 号  
平成 30 年 6 月 25 日

# 桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで  
たくましい荘川っ子

- ・ 考える子
- ・ 思いやりのある子
- ・ 元気な子

## 子どもに笑顔 学校に元気

校長 水口 悟

### 半夏生ず（はんげ しょうず 夏至 末候）

半夏（からすびしゃく）が生え始めるころ。田植えを終わらせる，農事の節目とされています。（新暦では，およそ七月一日～七月六日ごろ 日本の七十二候を楽しむより）

### ◇ ひとり歩きできる子の 健康管理

6月上旬は，感染性胃腸炎が流行し，その対応に追われました。1週間に約20名の児童（約1/3）が罹患し，欠席・早退するというとても感染力の強い状況でした。学校は，地域の全ての子どもが集まるところ。安全と安心が保たれていなければならない場所です。しかし，自然災害等をはじめ，時として，その安全・安心のバランスが保たれなくなることがあります。

今回，連日に渡り先生方といろいろ頭を悩ませました。対応の指標は，‘さしすせそ’です。危機管理の‘さしすせそ’とは，**さ**最悪を考えて・**し**慎重に・**す**素早く・**せ**誠実に・**そ**組織的に対応するです。危機管理なのか過剰反応なのかと一瞬迷うこともありますが，学校は地域の全ての子どもの生命を預かる場所です。‘さしすせそ’が，判断の方向を示してくれます。各トイレの塩素消毒を1日に2回，各教室の塩素消毒を毎日等々。長期戦になった対応を先生方は，慎重に誠実に繰り返してくれました。

状況が刻々と変わる1週間でしたので，メールを幾度も配信させて頂きました。保護者の皆さんのわが子への対応も組織的に関わる重要な対応となりました。おかげさまで，次週から少しずつ収束に向うことができました。「今日は，全員登校しています！」の報告に，心を撫で下ろし，学校とは全ての子どもの笑顔が集まるところなのだ，改めて気づかされました。

組織的という点では，学校医の熊田先生，PTA会長の澤中さんに，大変ご協力を頂きました。荘川子育てALL・STAFF，荘川地域のチーム力のおかげです。WORLD CUPの日本チームのようです。

「10・9・・・3・2・1・0！」「子どもたちの声が大きくて，びっくりした。」

16日（土），東海北陸自動車道四車線化記念イベントにおける上小鳥トンネルの点灯式における子どもたちのカウントダウンの声です。0！とともに点灯したLEDの明さには驚き

です。右カーブするトンネルのずっと向こうまで変わらぬ明るさが続き，子どもたちはトンネルのくぐり初めをしました。今年度中には，上下線の切り替えも終わるそうで，今度子どもたちは自家用車の中から，この体験を振り返ることになります。覚えているかな？



高山市：H30より「前期・後期制」

本校：4シーズン制

四季折々の素晴らしさを節目

春（4～6月）：出会い・めあて

**夏（7～9月）：挑戦Ⅰ**

秋（10～12月）：挑戦Ⅱ

冬（1～3月）：感謝・まとめ

前期の前半（4～6月）の3ヶ月が終わります。新しい出会いの中で，今年1年を通して「なりたい自分」に向けスタートしました。いよいよ後半，挑戦Ⅰの3ヶ月が始まります。